資料１別紙１

平成 27 年度第１回　屋久島世界遺産地域科学委員会　議事要旨

（１）屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況について

・植生のモニタリングについて、森林の植生の変化を見る上で５年前の結果との比較では短い可能性がある。世界遺産に登録された時代から等、一連の流れで報告してほしい。
・利用のモニタリングについて、自分の体験を肯定する心理的な働きにより満足度は高く出る傾向があることに留意し、調査結果の解釈に注意する必要がある。
・訪れた人の満足度は高いにも関わらず、なぜ繰り返し来島する人が少ないかを考えるべき。

（２）平成 27 年度モニタリング調査について

・アブラギリの駆除にナラタケ菌やモンパ菌の利用を考えてはどうか。
・花之江河では、水が流れているピート層がほとんどシカの踏み込みで破壊され、ミズゴケの層が陸地化してきている。水位を上げて高層湿原に戻すのか、そのままシカの踏み込みを許して陸地化させるのか検討する時期に来ていると思う。
・霧島で光を確保するため 1m20ｃｍほどの高さで広葉樹を切った際、萌芽しなかったことがある。なるべく高いところで切ると効果があるかもしれない。
・モニタリング調査で、水の流れなど周辺環境も見るべき。
・モニタリング調査の中で携帯トイレの携行者数の調査の中に、使用者数（実際どれだけ携帯トイレを使用しているのか）の項目を入れてほしい。
・ガイドを利用した方と、そうでない方とを分けて調査すべき。
・山小屋にあるトイレの汲み取り量のデータ調べ、利用が減っているかどうかを見てみるべき。
・アンケートは外国人の方には詳しく聞いていないが、意見を聞いてみてはどうか。

（３）ヤクシカ・ワーキンググループについて

・ヤクシカ・ワーキンググループでの具体的な結果や数値を含めた資料を、科学委員会で提示して頂きたい。
・シカの問題について、実際に今何頭生息し、何頭捕獲して、何頭を残すのか、これから国有林で具体的にどのように捕獲するのかということをはっきりと住民に示してほしい。
・（シカの個体数について）新しい推定方法は前提が違うため過去のデータと比較できない、という話であれば過去の推定結果を一度とりまとめて頂き、そこにどのような前提があるか併記したデータを見て、科学委員会でも議論したい。
・ヤクシカのことだけでなく、他のモニタリング結果についても、長いスパンでどのように変化してきたかというデータをとりまとめて頂きたい。

（４）山岳部における利用の検討状況について

・（資料２別紙３②の別紙４）整備の必要性がある所が上級登山者の利用が高い所になっているが、これはROSの観点と一致していない。ROSでは一般の観光客が利用するところは整備を集中させ、上級登山者が利用するところは整備を控え原生的な空間を残すというのが基本的な考え方である。それができていないところは不整合を起こす恐れがある。この調査結果をもとに、管理者が好ましいルートなのか検討する必要がある。

・前回この資料（資料２別紙３②の別紙４）を示された際は、「これはイメージである」と回答があった。しかし、今回このように示されると、既成事実化しているように感じられる。その時はイメージだと思っていたので、各評価項目や５段階評価がよいのか等は全く議論をしていない。

・現状をどう評価するかということと、今後どう整備するかということは全く別であり、一緒に「整備の必要性」としてまとめることはおかしいと思う。これは、これから先屋久島の山岳利用をどうしていくかを議論し、現状を踏まえ、どう整備していくか、と考えていくべきである。同じ表にまとめると誤解を招いてしまう。

（５）口永良部島の噴火について

・口永良部島でイノブタを飼育していた方がいたそうだが、屋久島に運んできた場合には、絶対に野生化しないよう、厳正な対応をお願いしたい。

・（口永良部島の噴火について）屋久島は安全だとただ示すだけでなく、過去に口永良部島の噴火が屋久島に影響があったかどうかを示す必要がある。

・今回のような規模の噴火では、ものさしによる調査ではなく、１平方メートルあたりどの位の灰が降ったのかという定量的なデータが必要であり、そのような調査が噴火後すぐにできる体制が必要である。人海戦術で島民の方に協力して貰える体制があるとよい。

・二酸化硫黄、亜硫酸ガスの噴出量も多くなっている。これらは人体や生き物への影響はないが、臭いがした範囲を記録しておくと噴火のデータを残すことができる。

・緊急事態が発生した時や、調査を行う際に科学委員へ相談ができる仕組みがあるとよい。

（６）その他

・（ユネスコエコパークについて）ペルーのリマでの大会は 10 年に１度の大会であり、予算があれば屋久島からも参加すると良いと思う。

・（シロノセンダングサについて）外来種でいうと、バナナゾウムシが屋久島の南部地区にも入ってきているため、経過を見ておく必要があると思う。

・管理計画の改定が平成 29 年の 10 月に予定されている。そうすると、平成 28 年 10 月には地域連絡協議会で議論されることになり、その前でないと科学委員会では助言できない。次の科学委員会は平成 28 年の２月であることからこの委員会が重要になってくる。次回の科学委員会では、しっかり検討ができる材料を示し時間をとって頂きたい。